



MUSASHINO *for* TOMORROW

特別
対談

佐藤 天彦九段 (将棋棋士 第74・75・76 期名人)
福井 直昭 (武蔵野音楽大学学長)

将棋と音楽

—— 時代を超えるその普遍的物語 (前編) ——

Vol.138
Oct 2021



特別
対談

第74・75・76期名人

佐藤天彦(棋士)

武蔵野音楽大学学長

福井直昭

“貴族”というニックネームを持つトップ棋士がいます。28歳のとき、羽生善治氏を破って将棋界最高峰のタイトルである名人位を獲得した佐藤天彦九段がその人。クラシック音楽をこよなく愛し、バロックやロココ調の家具に囲まれて暮らし、黒を基調に中近世ヨーロッパを彷彿とさせる装飾の施されたベルギーのファッションブランド、アン・ドゥムルメステールの服を着る——そんなスタイリッシュな生き方を貫く姿勢が愛称の由来とされています。

いっぽう本学の福井直昭学長は、野球や格闘技を始めとしたスポーツ全般への深い造詣に加え、将棋は現在、日本将棋連盟公認アマチュア五段の腕前。6月には天彦九段から指導対局を受け、本対談のわずか10日後には、将棋の聖地「将棋会館」において、天彦九段とCS番組の収録のため本格的な対局を行いました。

将棋と音楽という共通のジャンルに深く関わり、ご自身の専門分野以外にも鋭くアンテナを張りながら、ファッションやライフスタイルに強いこだわりを持つお二人が、ズバリ「将

棋と音楽」をテーマに熱く語り合いました。なお、対談の舞台はいよいよ来年4月に一般オープン(予定)する本学楽器ミュージアムです。(2021年9月5日実施)

一つのことを突き詰めた上で

福井 6月の長野での指導対局は、有難うございました。

天彦 あの時、福井先生が^{かく}角を取られたあたりの局面で、さらに銀を捨てて飛車を成り込んで勝負するところに、難局に遭った時にこそ、あえて踏み込むような鋭さを感じました。普通は押し込まれ始めると、それに応じて引く選択をしてしまうことが多いので、ああいった場面で切り返してきた先生の将棋は、印象に残っています。

福井 覚えていていただいて、恐縮です。来週の将棋会館での対局(CS番組「お好み将棋道場」収録)も、よろしくお願いします。特別なシチュエーションに、今からドキドキしています。

天彦 福井先生らしく、伸び伸びと思いきりよく指されてく

ださいね。

福井 リベンジなどと気負わず(笑)、でも頑張りたいと思います。さて、天彦先生の趣味がクラシック音楽であることはあまりにも有名ですが、まずはそのきっかけをお願いいたします。

天彦 小学生の頃も、両親に連れられて第九の演奏会などに行っていたのですが、中学生になって、福岡から大阪まで「奨励会」というプロ棋士の養成機関に通うようになり、その帰りの新幹線の中ラジオで聴いたドヴォルザークの『新世界より』に刺激を受け、クラシックに目覚めました。

福井 お気に入りの曲をお聞かせください。

天彦 いつでも気持ちよく聴けるのは、モーツァルトの『交響曲第41番ジュピター』です。リラックスしたい時は同じくモーツァルトのピアノ協奏曲、特に17番。集中したい時は、ブラームスの交響曲、特に第1番を選ぶことが多いです。

福井 音楽を聴きながらの集中は、難しくないですか？ 私はもちろん平気ですが(笑)。

天彦 研究に集中すると、徐々に音は聴こえなくなってきます。逆に対局中に、それがいいことかはわかりませんが、その場面場面に応じた曲が頭の中で流れることもあります。また、負けが込んだ時も、選り抜いた音楽はすぐに気分を変えてくれますね。

福井 天彦先生はピアノを習っていたんですね。

天彦 中学生の時にヴァイオリンを買って貰ったのですが、将棋が忙しかったこともあり習うまでには至りませんでした。でも、いつか楽器を習いたいという気持ちはずっと持ち続けていて、22歳の時に念願が叶ってピアノを習い始め、5年間ほど続けました。

福井 22歳というと、プロ4年目。習い始めたのには、何か理由が？



天彦九段「Blu-ray」で拝見した福井先生の2017年の新キャンパス竣工記念コンサートの舞台は、ここだったんですね。あれは実にいい雰囲気でした！」(於:ベートーヴェンホール)



第76期名人戦七番勝負第6局で挑戦者 羽生善治竜王(当時)を破り、名人3連覇を飾る(2018年6月19、20日 於:山形県天童市「天童ホテル」)

天彦 当時、私は若手の棋士として上を目指していたわけですが、同年代で私よりも活躍している棋士がいる中で、なかなか壁を突破できずにいたんですね。そんな時、これからの人生で将棋だけに傾注するのは少し寂しいと感じ、ピアノを習おうと決心しました。そして、ピアノを始めてからそれほど時を経ずに、自分でも不思議な感覚でしたが、将棋の結果が出始めました。

福井 音楽を学ぶ者は、作品の背後にある時代背景について、また、絵画や彫刻などの諸芸術・文学・宗教など音楽に関わりのある分野について、勉強する必要があります。しかし誤解を恐れずに言うと、私はバックグラウンドを勉強したからといって、曲の解釈が即時的に、劇的に変わることはないと思っています。ただ、音楽に関わる領域のみならず、様々なフィールドにおける知識・体験から長い時間を経て培われた感性といったものは、絶対に演奏に役立つと感じています。

天彦 福井先生と坂東玉三郎さんの対談(本誌Vol.135)の中でもおっしゃっていましたね。あれ、すごく面白かったです。

福井 要は、日々一つのことをとことん突き詰める努力をする一方で、1日24時間あるのだから、時間を上手く使い、人間としての幅を広げるために様々なことを経験しなさいということですね。

天彦 おっしゃる通りだと思います。私も将棋というメインになる部分がある一方、それ以外の色々な分野のことを学ん

だり、楽しんだりすることで、もちろんそれらが直接将棋の技術に転化されるわけではありませんが、人生を総合的に見たときに豊かになれるし、なにより自分自身が幸せに感じられていると思います。逆に、作曲家も、例えばストラヴィンスキーなどは、作風が時期によって全く違いますが、ミクロな視点で見れば、その時期ごとに特定の作風をとことん突き詰めています。つまり、一つの事を徹底的に掘り下げることで、後々色々なことにチャレンジしやすくなるのではないのでしょうか。

福井 先生は、名人という頂点に登りつめるところまで将棋を極められたからこそ、そういう心境になられたのでしょうか。棋士はスポーツ選手のように若くして引退ということもありませんかから、その棋士人生はいわば終わりのなき戦いですよね。そうした中で、専門以外の分野にも目を向ける意義は大きいと思われる。そういえば、私、最近サックスを始めたんです。

天彦 えっ、そうなんですか。

福井 まだ僅か1か月ですけど(笑)。輝かしさと柔らかさを兼ね備え、あらゆるジャンルの音楽に対応できるのが魅力的で、ずっと憧れていたんですよ。

天彦 なるほど。サックスで、クラシックとは別ジャンルの曲に挑戦したいと。

福井 もともと洋邦新旧問わずポップスやR&B、ロックなども大好きなんです。ちなみにマイケル・ジャクソンのステージを、国内で7回、ドイツで1回、計8回、生で観たのは自慢です(笑)。古今東西に好きなアーティストがいて、中でもサックスを重用している歌手やバンドが多いんです。例えばビリー・ジョエルとか。あっ、そういえば天彦先生と同じ福岡出身の「チェックーズ」は、知りませんか？

天彦 分らないです。すみません。

福井 世代が違うんですね。しつこいですが、ボーカルの藤井



フミヤさんは知らないですか？ 藤井聡太さんではなく(笑)。

天彦 ああ、名前くらいは分かります(苦笑)。

福井 話を戻して(笑)、でも、どうして始めたのかというと、仕事に追われる日々において、自分自身のピアノの練習までこなすのは正直かなり辛いのですが、「やるべきことをやった時だけ、その後将棋やサックスができる」——そう決めていると、仕事やピアノの練習に対する意欲が湧いてくるんです。

天彦 確かに、生活にハリが出るというか、メインの仕事にも良い影響を与える相乗効果があるような気がしますよね。

福井 私にとっての学長や教授としての仕事は、どれだけ役に立てているかはわかりませんが、大学、学生、教職員のため。ピアノの練習は、自分のためではあるけれど、仕事の一部です。でも、将棋やサックスは気楽にできる趣味。下手なりに「良い手が指せた」、「良い音が出せた」とか、日常にそういった喜びがあることで、全体のバランスが取れているような気がします。ただ、来週の日彦先生との対局は、趣味の領域を超えてますけど(笑)。

将棋・音楽と人生 —— 「人間同士の」将棋の魅力

福井 演奏は(ソロなら)一人、将棋は対局者がいるという点で大きく違うものの、時間を戻すことはできない、ミスを消しゴムで消せない、それは両者似ている部分ですよ。ただ、将棋には考える時間がある、それに反して演奏は始めたら立ち止まることができない。

天彦 たしかに将棋にも「持ち時間」というものがあって、時間を気にしながら指しているわけですが、楽器の演奏ほど時間に追われているわけではありません。実は2回、ピアノの発表会に出たことがあるのですが、リハーサル時から指が震え、



お二方で天彦九段のフェイスリット・ブランドの「アン・ドゥルメステール」を着用して(於: プラームスホールホワイエ)



ここまで緊張するのかと、自分自身で驚いたほどでした。焦って、一度家に練習しに帰りました(笑)。

福井 ピアノは、10本の指で弾く音の量からくる暗譜に対する恐怖心がありますからね。

天彦 そうか、圧倒的な情報量を前に、緊張したんですね。どうやら棋士と演奏家には「ミスをした際にどのように気持ちを保つのか」という共通の精神構造が必要な気がします。

福井 それも発表会に出られたからこそ、感じられたことですよね。ミスしてもやり直せないという点では演奏も将棋も同じですが、将棋の対局でマズい手を指してしまうことは、一つのミスが負けに直結するだけに、より厳しいと思います。

天彦 確かにミスがもたらす結果には、興味があります。演奏者がミスをしたとしても、1、2時間の演奏会の中で「ああ、あのミスが痛かったな」というような印象を与えなければ、良いというか構わないというか、そういうことってありますよね。

福井 将棋と違って、演奏に勝ち負けはありませんからね。それと、プロともなれば何度もミスをするということはありませんが、例えばミスしたとしても、聴衆としては、それ以上に(修正が可能な)録音とは違う、生の音の素晴らしさ、いま演奏者と同じ空間にいる幸福感の方が勝るのではないのでしょうか。まあ、ミスの大小によりますが(笑)。ライブ感といえば、一昨日の朝から昨日未明まで日を跨いで行われた菅井竜也八段との対局(名人戦A級順位戦)のモバイル中継。熱戦に感動いたしました。結果は、天彦先生にとって実に惜しい敗北だったのですが、2人の棋士が焦りや苦しさを乗り越えて戦う姿、おそらく逆転負けが見えたであろう天彦先生の表情、仕草。また、先生のその後の手には、一体どのような思いが込められているのか。一喜一憂しながらも、いろいろ想像力を働かせることで、少しばかり先生の感情を共有できたような気がしました。

天彦 ありがとうございます。そこを評価してもらえるのは、

対局者冥利につきます。時間に追われたり、あまりにも難しい局面など、いついかなる時も最良の手を指し続けるのは難しい。時には手痛い失敗もしながらも、こうした選択を積み重ねることで勝利を目指していく将棋は、観ている人の感情に訴えかけることのできるエンターテインメントです。

福井 それこそが将棋の醍醐味ですね。我々ファンは人間ですから、AIではない、生身の人間が長時間に渡り困難に挑む姿に共感し、惹きつけられます。もちろん今回は「勝って気分良くこの対談にいらして欲しい」という気持ちから、余計、天彦先生に感情移入したのかもしれませんが(笑)。

天彦 苦しい場面で奮闘するのは辛いですし、いいところまで持ち直したのに、結局負けてしまったらダメージが大きいものです。それならいっそ、悪くなったらさっさと諦めて、次の対局に向かった方が精神的にも良いという考えも勿論あるでしょう。棋士の中にも、私のように諦めの悪い方もいる一方で、さっさと投了(対局者が負けを認めて相手に伝えること。その時点で対局が終わりになる)してしまう方もいらっしゃいます。

福井 いわゆる「早投げ」というやつですね。

天彦 はい。早投げした方が、ツキが貯まるという価値観もあり、そういう信条からすると、必死に粘る姿は往生際が悪くて見苦しいということになります。確かに相手の言いなりになって、あたかも土下座をするような手を指さなければならぬこともあります。しかし、簡単に投了せず、そんなふうにはポロポロになりながら戦い続けることを、私は全く厭いません。むしろ形勢が悪くなってから本番だとさえ感じます。

福井 まさに天彦先生の大好きな『宇宙戦艦ヤマト』の世界観ですね(笑)。

天彦 登場人物の感情の揺れ動きやヤマトの戦う姿勢は、私



天彦九段「実は、他の人が『アン・ドゥムルメステール』を着ているのを初めて見ました(笑)。福井先生、お似合いですね!」



バロック・ロココ様式を愛する天彦九段。
ロココ調デザインの「モーツァルトホール」にて

の心の幼い部分に共鳴して、いまでも勝負師としての美意識となっています。実際不利な状況の対局中も、ヤマトを自分に重ね合わせて気持ちを奮い立たせたこともありました。

福井 私は学生に「演奏中に緊張し不安な気分になった時は、『何のためにこれまで練習してきたのか？ 今みたいな緊張状態になるからこそ、練習を積んできたのではないかと自問自答し、自らを奮い立たせなさい』と指導しています。実は私たちの毎日も、将棋や音楽と同じで、後戻りのできない選択の連続なのかもしれません。

天彦 今日何を食べるか、誰と過ごすか、どんな言葉を発するか。選択を重ねることで山あり谷ありの物語を作っていくという



建築にも造詣が深い天彦九段。「地下と1階が一体となったこの空間は、ヨーロッパの広場を彷彿させますね」

点で、将棋と人生はとても似ていると思います。さらに言えば、その人の人生選択、その人の美意識が、結局のところ将棋の戦法のような具体的などころにもつながっていく、投影していくというように思われます。

福井 過去の選択の蓄積が今の自分を形成しているのだから、先程の話のように、なるべく色々なことを体験することが大事だなとあらためて思いますね。結局自分以外の違う人間になることはできないし、人生の諸々において、その時点で良いと思って様々な選択をしてきているわけで、他の選択をしていたらどうだったかなんて考えても意味がない。

天彦 そうですね。

福井 棋士も演奏家も、一人ひとり壁をどう乗り越えてきたか、自分なりの葛藤を経ることで、棋士なら固有の凝縮された勝負勘、演奏家なら芸術感を身に付けるのだと思います。将棋の盤上で、あるいはステージで、人間性も含めそれらを嘘偽りなくさらけ出して戦う、演奏する。これこそ、本学の教育方針である「音楽芸術の研鑽」と「人間形成」の関係に通じるものだと思います。

“人間”が宿る創造物 —— 「棋譜」と「楽譜」、「名局」と「名曲」

福井 将棋で、それぞれの対局者が指した手を順番に記入した記録を、棋譜といいます。いみじくも棋譜の「譜」と楽譜の「譜」は同じ。棋譜を残した対局者は、いわば音楽における作曲家です。天彦先生もご著書の中で「将棋は物語のようなもの。棋譜は対局者同士がつくる作品」とおっしゃっていますが、良い棋譜を残したいという思いは芸術的感覚、創造的意欲からくるものなのでしょうか？

天彦 それは色々絡み合ってくるものだと思います。将棋は勝者と敗者に分かれる残酷なゲームですので、最終的には勝ちを目指すのは当然です。しかし、ただ勝てばいいという考えは、私が目指すところとは少し異なります。先ほどの話にも重なりますが、勝敗という価値観「だけ」に軸足を置いていると、劣勢の局面では苦しいことしかないわけじゃないですか。ただ、将棋をゲーム、つまり「楽しむためのもの」というスケールの価値観で把握すれば、優勢な局面だけが将棋の楽しさじゃないわけですよね。劣勢の局面も、そこでどのように局面を長引かせるかとか、相手に対して脅威になる勝負手を突き付けるかとか、そういったことを考えたら、実はものすごくワクワクする局面じゃないかと。そこでモチベーションが高まって、

良い手が指せる。勝ち負け以外の視座、つまり悪い局面でさえも美しいと捉えることができる美意識が、結果、局面の打破から巡り巡って勝ちに結びついていく。このことも、最終的には勝敗に収束するという固有性をもつ、将棋の複合性というか、魅力なのだと思います。

福井 例えが拙いですが、野球観戦だって、10対0のまま終わるより、たとえ負けても諦めなかった結果の10対9のほうが面白いし。

天彦 そうなんですよ。どう転ぶか分からないほうが面白い。

福井 天彦先生がこうした考えに至ったのは、昔から将棋に限らずさまざまな価値観に触れて、視点を多く持つことを意識したからでしょうね。だからこそ勝利にだけ固執するのではなく、他の尺度でも考えられたというか。

天彦 「勝つためには、勝ちたいという気持ちから離れる」という一見矛盾しているように見える方法は、結局目の前の我欲から離れるということです。人に勝ちたい気持ち、名誉欲、金銭欲などは、誰だって多かれ少なかれ持っているものです。しかし、思考をそこから切り離し深い集中に至れた時こそ、勝利を手繰り寄せられるような気がしています。

福井 そうですね。演奏でも「うまく弾いてやろう、人から褒められよう」などと欲をかくことは、間違いなく緊張につながります。あっ、たった今、このことを来週先生と対局する自分自身への戒めとして、心に刻もうと思いました(笑)。さて、そのような思考過程を経て、棋譜が「作品」として完全に残るわけですが、天彦先生がまだ下位のクラスにいた頃は、今と違ってモバイル中継などが充実しておらず、ファンに棋譜を見てもらえないのが辛かったとか。

天彦 そうなんですよ。その内容を一顧だにされることなく、白か黒の結末だけで判断されるのは辛いことで、今トピック



J:COM、スカパー！、CATVなどで視聴ができる「囲碁・将棋チャンネル」の「お好み将棋道場 第279回」。福井学長が佐藤天彦九段に果敢に再挑戦した勝負の行方は如何に!? 聖地・将棋会館での白熱した攻防を是非ご覧ください。

■放送日時

初 回：10月30日(土) 20時00分～21時40分

再放送：11月 4日(木) 10時00分～11時40分

ラスで戦っていて嬉しいのは、たとえ自分が負けた対局であっても、先ほどの福井先生のように「感動した」という声をいただけることがたくさんあって、これは精神的には全然違います。

福井 様々な信念、人生観が投影され創造された将棋における「棋譜」と、音楽における「楽譜」。あまたあるそれらの中でも、人の心を揺さぶる特に優れたものが、それぞれ「名局」「名曲」として後世まで語り継がれ、また演奏されていくのだと思います。今回は、将棋AIの功罪やファッションなどについてお聞きます(二人の対局の詳細を含め、後編に続く)。



福井学長の初段免状と共に。天彦名人、羽生善治竜王の直筆揮毫(サイン)が並んで書かれている。天彦九段「和紙はボコボコして筆がついてこないで、かすれてしまいがちなんですが、これはよく書けてる方です(笑)」

佐藤天彦 Amahiko Sato

1988年福岡県生まれ。中田功門下として1998年に奨励会入会。2006年プロ入り。2008年第39期新人王戦で棋戦初優勝。2011年同棋戦で2度目の優勝。2016年第74期名人戦にて羽生善治氏を破り、史上4番目の若さで名人位を獲得、九段昇段、以後3期連続名人位。2016年第2期叡王戦優勝、2018年第26期銀河戦優勝。将棋大賞は2015年度に最多勝利賞・最多対局賞・連勝賞・名局賞・敢闘賞の五部門を獲得。2016年度には最優秀棋士賞を受賞。クラシック音楽、ファッション、ヨーロッパの文化等に造詣が深く、「貴族」の愛称を持つ。

働く人々

武蔵野で



武蔵野音楽学園が生徒・学生の皆さんを迎え入れ、快適かつ安心な環境のもと高度な音楽教育を提供するために、直接指導にあたる教員以外にもさまざまなセクションで数多くの人々が働いています。普段、生徒・学生の皆さんと接する機会の少ない部署、縁の下の力持ち的な部署も含め、すべてが揃って初めて教育組織として機能します。武蔵野で働くすべての人々に敬意を表し、今号と次号の2回にわたり全セクションをご紹介します。

学務部

学務課

学務課は、広い事務室内に隣り合わせで配置された演奏課および学生課と学生支援のための情報共有をしながら、業務を行っています。職員は12名で、担当業務は大きく「教務事務」、「入学者選抜等事務」の2つに分けられています。

「教務事務」では、授業・試験等の実施をはじめ、学生の皆さんに直接関わることが多く、窓口における履修・授業の相談、学生一人ひとりの成績・単位・進級卒業の管理、成績証明書等の発行などの業務があります。さらに授業時間割の計画、学則や学務関係の規程の管理、教員免許状、学芸員の公的資格取得に関する業務も担っています。

「入学者選抜等事務」では、入学者選抜に係る企画と運営が主な業務です。受験生がこれまで培ってきた力を発揮できる環境を整えるよう、公平かつ厳正に業務を進めています。



これらさまざまな業務には、実際に授業やレッスンを実施する教員との連携が大切となります。教員が必ず立ちよる部署として、学内でハブ的役割を担っているとも言えるでしょう。

学生課

学生課は、保健室及び学生寮の担当者、心理カウンセリング担当者を含め、12名の職員で構成されています。主な業務は、学内外の奨学金に関する事務、衛生管理・指導、寮生活支援、課外活動支援、種々証明書の発行等、学生生活支援に関するその他、教員免許状取得の条件とされている「介護等体験」および「教育実習」に関する事務です。



本学では多くの学生が個人レッスンを通じて教員と密接な関係を築いていますが、私たち学生課職員も学生を知ることが学生支援の第一歩であると考え、新入学生全員を対象とした個人面談の実施など、一人ひとりに最適な支援が実現で



きるよう常に心掛けており、学生課職員全員が、学生からの多様な相談に対応できるよう、サポート力向上を目指しています。

学生たちがさまざまな経験を通じて充実した大学生活を過ごすとともに、そこで培われた自主性、協調性、個々のスキルを活かして社会に飛び立ってくれることを心から願っています。



就職課

就職課では、国家資格キャリアコンサルタント、キャリア・ディベロップメント・アドバイザーの資格を持つ職員を含む3名の職員が業務にあたり、本学の大学生、大学院生、別科生のみならず、卒業生も対象としてキャリア支援を行っています。

就職活動に向けてのセミナーやガイダンスをはじめ、教員を目指す学生を対象とした特別講座や、演奏団体・音楽教室講師・一般企業・オペラ研修所などの募集説明会を実施するほか、履歴書やエントリーシート、作文などの添削指導や面接指導も個別に行っています。個別相談では、まず皆さんが希望している将来像をじっくりと聞き、それに沿って一緒にキャリア目標を立てていきますが、可能性が広がるようにいくつかの選択肢を提案することもあります。

私たちは、目標に向かって努力を重ねる本学学生・卒業生の皆さんが夢を実現できるようお手伝いします。

演奏部

演奏課

演奏課は、本学が主催する多彩な演奏活動を総合的にプロデュースし、演奏面において学生を支援する武蔵野音大独自のセクションです。国内外の著名な演奏家や客員教授、教員、学生によるコンサートや公開講座、オーケストラ、ウィンドアンサンブル、合唱団などの定期公演の企画立案運営、そのためのチラシやプログラムの制作からチケットの販売、国内外の演奏旅行の計画まで行います。また日常的に2つのオーケストラ、4つの吹奏楽団、フルートオーケストラ、大合唱や室内合唱、オペラなどの授業において、指導教員と緊密に連携しながらリハーサル計画の策定、楽譜の準備やパート譜の作成、セティングにいたるまで、さまざまな業務をこなしています。さらにコンチェルトのソリストや選抜コンサートなどのオーディションの実施、プロのオーケストラとの共演や社会貢献となる外部からの依頼公演のマネジメントに加え、教員のリサイクルや国内外のコンクール・オーディションについての情報提供など、演奏に関するあらゆる業務に携わっています。



スタッフは9名、学生たちの演奏や生活に関する悩みにも親身に相談にあたっています。日頃から授業やリハーサルを見守る中で、本番で良い演奏が聴けたときや学生たちの活き活きとした顔に接したときには感慨深いものがあります。

この秋も多くの合奏、合唱の演奏会や授業発表があります。コロナ禍において、細心の注意を払い感染防止対策に万全を期して練習、リハーサルを積んでいます。学生たちの努力の成果をぜひ聴きにいらしてください。



図書館



図書館

図書館は、図書館司書を含む5名の職員とパート職員2名で業務を行っています。カウンター業務のほか、学生や教員への研究活動や学修に役立つ学術情報の提供や支援、国内外の楽譜や音楽書の学術資料をはじめとする体系的な収集のための選書・収集・管理・整理・保管を行っています。近年は図書館のデジタル化が進み、資料の検索方法やデータベースの使い方を教える「情報リテラシー教育」にも力を入れています。また、他大学との繋がりも活発で、全国の国立・私立大学図書館等とのネットワークを通じて、図書館間で資料の相互貸借や文献複写等の利用を行っています。

コロナ禍以前の図書館入館者は、毎年10万人以上で、年間の貸出冊数が1,000冊以上の学生もいるなど、学生の学修に対する意識の高さがうかがえます。

本学の図書館は、学園において人と情報が活発に交流し合い、学生同士、学生と教職員との「和」が広がる場所でもあります。その中で私達は、利用者の居心地の良い環境を整えること、生徒や学生たちと楽譜や書籍などの図書館資料を結びつける大事な役割を担っていることを心にとめ、日々の業務を行っています。図書館員はリサーチのプロ。課題や調べもので疑問や困った事などありましたら気軽に声をかけてください。



総務部

企画課

企画課は、課長以下6名で業務を実施しています。学園の中期計画（5か年計画）および年度事業計画の立案・結果の分析・次期計画への反映、自己点検・評価の実施と改善方策等の取りまとめなど、過去を振り返り、現実をしっかりと見つめて、より良い学園の将来を考える部署です。

所掌する業務は、企画課だけでは完結しません。学園内のすべての機関・部署及び先生方から各種資料の作成や提供を受けて、はじめ



て成り立ちます。また、文部科学省、東京都をはじめ多くの外部機関とかがわかります。

学園を取り巻く環境が変化する中で、先を見通し、何をなすべきかを考え、これを達成するためいかにして行動するかを語り合いながら、「明るく、楽しく、活き活きと」をモットーに、日々、業務に取り組んでいます。

総務課

総務課は8名の職員で、学園の教職員の皆さんが、安心して教育研究やそれぞれの業務に専念できるよう快適な勤務環境作りのため、学園全体の人事、労務管理、給与、福利厚生、公文書処理などを担当しています。さらに、どの部署の所掌にも属さない、学園にとって必要なさまざまな業務について相談を受けることも多いため、公正な視点で関連部署との連携・調整等に関する業務も行っています。

また、教職員の能力向上のため、海外の招聘教授のレッスン受講・聴講、国際的な学会への出席などの教育研究活動に関する研修や、初任者・職階別など管理運営に関する研修に加え、在外研究員や外部機関への教職員の派遣等、各種研修プログラムを計画実施しています。

このように、総務課業務の対象は多岐にわたることから、幅広い知識と先見性を持って、教員や各部署との連携を大切に、日々の仕事に臨んでいます。

経理部



経理課

経理課のスタッフは4名です。専門性の高い部署ですから、経理のキャリアが長いスタッフばかりです。

業務としては、学園に入ってくるすべてのお金（学納金や補助金など）と、出ていくすべてのお金をチェックし、記録し、最終的に決算書類を作っていきます。決算のデータは本学園の経営状況を表す指標となり、経営判断の上で非常に重要なものとなります。

その他としては寄附金の募集活動があり、多くの卒業生、在校生ご父母、教職員の皆様にご協力をいただいています。また奨学金等に積み立てている基金を運用して着実な成果を上げています。いずれの収入も教育活動の重要な原資となっています。



少人数ですので、レバレッジを効かせて、1+1が3になるよう業務のやり方を常に工夫しています。業務の性質上、数字にとらめっこする場面が多く、神経を使う作業の連続ですので、お互いに何でも話せるフランクな職場の雰囲気を大事にしています。





武蔵野で

働く人々



管理部



管理課

管理課では、7名の経験豊かなベテランの職員が日々の業務を牽引しています。

主な業務は学修環境の整備であり、教室や練習室等の教育研究施設の整備や危機管理等が挙げられます。

江古田キャンパスは、リニューアルされて丸4年が過ぎました。共用の施設として皆さんが気持ちよく使用できるように常に清潔をモットーに、大切に維持管理していく必要があります。また教育現場は、基本的に安全・安心でなければなりません。地震、台風、ゲリラ豪雨等の自然災害、不審者への対応、感染症等、特に新型コロナ感染症においては教育環境の安全確保のため緊張感を持って対応策に



取り組んでいます。

さまざまな危機管理について、常に消防、警察等の関係機関や業者と連携をとりながら、有事の際には迅速な対応ができるような態勢を整えています。



楽器管理室

楽器管理室は、2名で大学が所有する管楽器、弦楽器、打楽器の保管、メンテナンスを行い、学生がレッスン、授業で使用するときに貸し出しをします。仕事の内容から、管楽器、弦楽器、打楽器の学生、教員との関わりが多く、ピアノ、声楽など他の専攻学生の中には、大学にこのような部署があることを知らない方も多いと思います。

大学が所有する楽器は、管楽器62種類、弦楽器6種類、打楽器は約90種類とかなりの数になります。楽器管理室で簡単な修理、メンテナンス、消耗品の交換をしますので、全ての楽器、附属品のことがある程度分らなくてはいけないため覚えるまでが大変です。

日頃から学生の皆さんが良い状態でレッスン、授業が受けられるようサポートをしています。相談があればいつでも来てください。

営繕課

営繕課は、4名の技術職員と1名の事務職員の5名で業務にあたっています。主に、武蔵野音楽学園が保有する数多くの施設（江古田キャンパス・入間キャンパス・附属高等学校・附属幼稚園・学生寮・附属音楽教室・学舎・研修センター）を安全で快適な環境維持を図るために様々な設備の定期点検や修繕を行っています。経年劣化に伴う設備故障、漏水、漏電などの緊急的なトラブルへの迅速な対応が求められています。その他、多様なコスト縮減を実施し、省エネを踏まえたエネルギー使用の維持管理の検討・見直し、施設設備の環境への配慮を行っています。

学生や教員の皆さんとの関わりがある、授業で使用するオーディオや情報通信機器のトラブル対応、演奏会の録音や照明操作など教育環境を整える業務もあります。特に、学園祭の開催時には、会場の設営や機材貸し出し、取り扱いの説明など、学生たちに寄り添いながら対応しています。

“営繕課”という聞きなれない職種ではありますが、私たちは「本学園で学ぶすべての園児・生徒・学生、また保護者の皆様に安心・安全



を提供すること」をモットーに、幅広い分野の業務に対応できる陰の立役者的な存在でありたいと思っています。

チャンスをつかんで栄えある舞台へ！

本学管弦楽団演奏会のソリストオーディションに合格し、貴重な演奏体験をされた3名の学生にコメントをいただきました。併せて大学院修士課程修了生新人演奏会の出演者もご紹介します。



曾田 響さん／ピアノソリスト

【Profile】武蔵野音楽大学附属高等学校音楽科卒業。現在、武蔵野音楽大学音楽学部演奏学科ヴィルトゥオーゾコース3年次在学中。吉谷美哲、塚田雄二、福井直昭の各氏に師事するほか、ケマル・ゲキチ氏のレッスンを受ける。

管弦楽団演奏会 (9月20日／ベートーヴェンホール)

私は、附属高校在学中から先輩方がピアノ協奏曲を演奏されている姿を見てきたので、この演奏会に出演することは、大きな目標となっていました。実際にオーケストラと演奏させていただいて実感したのは、一人で演奏する時とは異なる感覚を、限られたリハーサルの中で掴まなければならないことの難しさです。



また、リストのピアノ協奏曲第2番は交響詩のような協奏曲なので、オーケストラの中にピアノを溶け込ませることも大きな課題でした。演奏会では多彩な音色に囲まれながら、これまでに感じたことのない高揚感に包まれました。主題をオーケストラから受け継いで変容し、音楽を展開させていくという大変刺激的で貴重な経験を通して、音楽の新しい魅力を発見することができたように思います。



吉田サハラさん／ピアノソリスト

【Profile】東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校卒業。東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。現在、武蔵野音楽大学大学院音楽研究科修士課程ヴィルトゥオーゾコース1年次在学中。島畑齊、北川暁子、坂井千春、重松聡、イリヤ・イーティンの各氏に師事。

管弦楽団演奏会 (9月24日／東京芸術劇場 コンサートホール)

小さい頃から、コンチェルトはピアノ演奏の中でも一番華々しい形態という認識があったので、先生からソリストオーディションのことを伺い、受けることを決めました。



オーディションは予選を含めて3回あり、正直、精神的にも体力的にも疲れてしまった時もありました。また本番が近くなって急に自分の音楽に迷いを感じ、悩んだ日が何度もありました。その度に、伴奏をしてくださった先輩や、先生の励ましの言葉を思い出しながら乗り越え、演奏会当日は思いきり本番に臨むことができました。

ピアノは、一人で演奏することが多く孤独だと思っていましたが、ソリストを経験して、多くの方との繋がりがあってこそ、今の自分がここにあるんだという思いを強く持えました。感謝の思いと共に、これからもピアノを弾き続けていきます。



辻 友香さん／ヴァイオリンソリスト

【Profile】武蔵野音楽大学附属人間音楽教室修了。同大学音楽学部演奏学科卒業。現在、武蔵野音楽大学大学院音楽研究科修士課程ヴィルトゥオーゾコース1年次在学中。田島美佳、樋口菜穂美、R.ダヴィドヴィッチ、飯島多恵の各氏に師事。

入間市「市民コンサート」

武蔵野音楽大学管弦楽団演奏会 (10月9日／パッハザール)

私はこれまでオーケストラをバックに演奏した経験がなく、何十人もの人々とひとつの音楽を作っていくことの素晴らしさや難しさを経験してみたいと思い、ソリストオーディションを受けました。合格が決まったと



リハーサル風景

きは、喜びとともに限られた時間でどこまで調整できるのだろう、という不安もありました。音量バランスや細かい表現をどのようにオケと共有できるかなど、指揮者の北原先生やオケのメンバーと緻密に打ち合わせをしながら克服していきました。普段からこのオーケストラのメンバーとして演奏していますが、今回ソリストとして音楽を違った角度から見られたことによって、自分の考えをよりはっきり表現できるようになったと感じます。本番では、オケと一緒に音楽を作り上げることを楽しみながら演奏することができました。

※なお、本公演は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となり、辻さんは、10月14日、ベートーヴェンホールで開催された本学管弦楽団演奏会(Bオーケストラ授業発表)でソリストを務めました。

令和2年度 大学院修士課程修了生新人演奏会

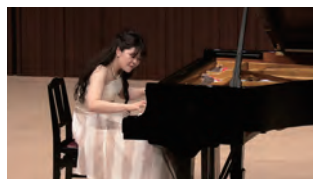
令和3年5月14日 ブラームスホール



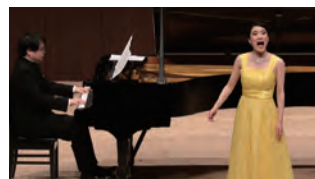
横地ちひろ (マリンバ)



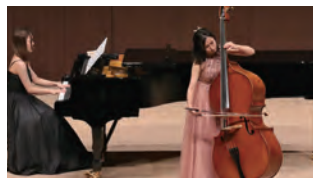
乗田晏妙 (ピアノ)



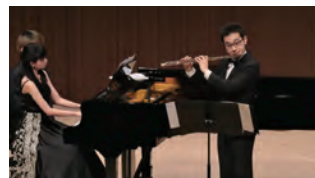
安田茉生 (ピアノ)



山内菜緒 (ソプラノ)



宮澤麗奈 (コントラバス)



高橋里和 (フルート)



藤澤史帆 (ソプラノ)



吉原麻実 (ピアノ)

Museum of Musical Instruments

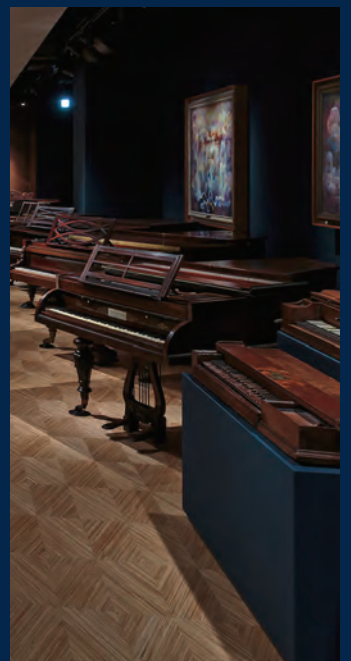
「楽器ミュージアム」いよいよオープンへ

このほど、本学楽器博物館は江古田新キャンパスの竣工を契機に、江古田・入間両キャンパスの楽器博物館の楽器を集結させ、「武蔵野音楽大学楽器ミュージアム」と改称して、11月に新たなスタートを切ることとなりました。

本邦初の楽器博物館として、「武蔵野音楽大学楽器陳列室」が開設されて60余年、施設は「楽器博物館」として発展的に改組され、長い間、江古田・入間の両キャンパスにおいて、本学の多くの授業や研究活動に貢献してまいりました。さらに、学外においても幅広い層に利用されて、「社会に開かれた大学」としての役割も果たしてきました。

わが国最大となる所蔵資料約5,700点のうち、約1,600点が展示される館内は、「鍵盤楽器」「管弦打楽器」「日本の楽器」「世界の民族楽器」の4つの展示室で構成されています。各展示室は、それぞれ異なるイメージで演出され、楽器の歴史や種類、地域的な広がりや系統立ててわかるように工夫されています。ミュージアム中央に設けられた円形のニュートラルな空間から、4つの異なる楽器の世界にアプローチすることが可能です。

現在、本学では新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐために、入構者を制限しております。このため、当面の間、楽器ミュージアムの入館は、本学の学生・教職員に限らせていただきます。見学は、館内が密になりすぎないように、事前予約制とさせていただき、入館者の上限を定めて、安心・安全に努めてまいります。また、同窓生をはじめとする一般の方への公開は、来年4月を予定しております。なお、感染などの状況によって、公開時期が変更になる場合もありますので、詳細は本誌次号、または本学ウェブサイトをご覧ください。何卒、ご理解賜りますようお願い申し上げます。



リストプラザに フランツ・リスト胸像設置

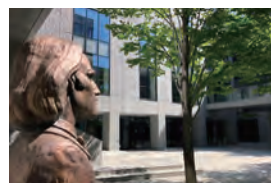
去る4月13日、「フランツ・リスト」の胸像が、江古田キャンパス リストプラザ南西部、楽器ミュージアムの前に設置されました。この像は、2019年10月24日にハンガリーのジュール・フィルハーモニー管弦楽団より、武蔵野音楽大学創立90周年のお祝いと友好の印として寄贈されたものです。



本学には、長年にわたる諸外国との文化交流の成果として、J.S.バッハ、ベートーヴェン、モーツァルト、ショパン、コダーイ、ラヴェルなどそれぞれの国が誇る作曲家の胸像が贈られており、今回のリスト像が12番目の胸像となります。

キャンパスの中心に位置し、学生、教職員が行き交い、集い、新しい交流を生み出す場所として、フランツ・リストの音楽家として人間としての偉大な人物像から命名された「リストプラザ」。そこに本像が設置されたことは、大変嬉しいことです。寄贈式の時に本学を訪れたこともある制作者フェレンツ・レボー氏は、設置された像の写真を見て、「まさに像とリストプラザはフィットしている」と大変喜ばれていました。

像の台座には、リストが生前によく口にしていた、「才能あるものは社会に還元しなければならない」という意味をもつ「Génie Oblige!」という言葉が刻まれています。この言葉と共に武蔵野の新たなシンボルとして行き交う学生たちの活躍を精悍なまなざしで見守っています。



聴衆も待ちわびた ケマル・ゲキチ ピアノ・リサイタル

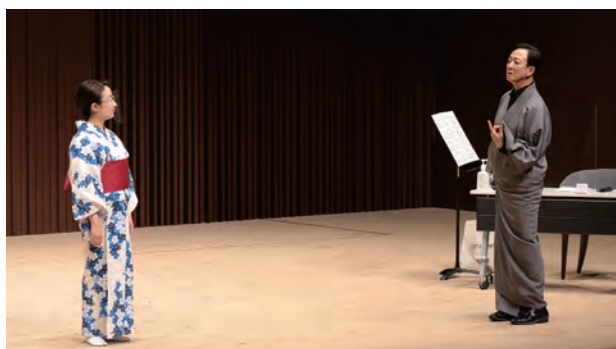
ケマル・ゲキチ ピアノ・リサイタルが、6月24日ベートーヴェンホールで開催されました。昨年来数々の演奏会が新型コロナウイルスの影響で中止となる中で、2年ぶりの来日となったゲキチ教授の演奏を待ちわびた聴衆が詰めかけました。

プログラムは、最初と最後にゲキチ教授の得意とするリストの曲が置かれ、前半はシューベルトとラフマニノフ、後半はショパンとシューマンが並ぶという魅力的なものでした。どの曲にも歌謡性が溢れると同時に詩的な表現がなされ、美しいパフォーマンスで聴衆を魅了しました。また、曲間が度々短い即興で結ばれていたことも特筆されます。現代では殆ど行われなくなり、書物でしか知るすべのなかった往年の慣習を目の当たりにできたことは、その場の全ての聴衆にとって貴重な体験となったに違いありません。

最後に演奏されたリストの『《ヘクサメロン》—ベッリーニの歌劇《清教徒》の行進曲による華麗な変奏曲S.392』は、その当時先端をいく6人の作曲家、リスト、タールベルク、ピクシス、エル



ツ、ツェルニー、ショパンの合作による希少な変奏曲で、ゲキチ教授は「19世紀におけるトップクラスのコンポーザー＝ピアニストたちの個性と、彼らとリストの関係が映し出された、非常に興味深い華麗なる曲」と評され、教授の卓越したテクニックで各作曲家の特徴を見事に表現し、当時のパリ社交サロンを彷彿させる圧巻の演奏に、聴衆からの拍手が鳴り止みませんでした。



坂東玉三郎特別招聘教授による 特別講座開催

本学の坂東玉三郎特別招聘教授による特別講座が、6月29、30日の2日間にわたり、ブラムスホールで開催されました。

今回のテーマは「舞台上の所作、演技」について。まず始めに、大学院の声楽専攻の学生たちが登場し、舞台上での歩き方やお辞儀の仕方を、洋装、和装に分けて指導されました。受講生たちのどこかぎこちなさが残る動きに対して、教授からは、「常にシチュエーションを想像して、普段から意識して動作を行うことが大事、特に歌い終わってからの去り際を美しく見せることが大切」と⑦

④ アドバイスされ、自ら美しい所作のお手本を示されました。

続いて、オーディションで選ばれた学生たちのレッスンが行われ、ヴェルディ：歌劇「椿姫」、J. シュトラウス：喜歌劇「こうもり」、ビゼー：歌劇「カルメン」からよく知られた場面を題材に、今回はそれぞれのシーンがわかるように日本語訳で演奏しました。聴き手に伝わる演技をするには、「場面の設定をしっかりと把握して、自分が動いている景色を立体的に観客に見せること、対象物をはっきりさせて演技をすること、客席に向かって歌うことは当たり前だが、意識は舞台上の相手に向けていること」など具体的に指導され、受講した学生たちは、発声だけ、形だけになりがちな自らの演奏に気づかされたようでした。講座終了後にもアドバイスをいただくなど、今後の研鑽のモチベーションとなる有意義な講座になりました。



飯森範親氏を客演指揮者に迎えウィンドアンサンブル演奏会開催

武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブルが、7月15日、東京芸術劇場 コンサートホールにて演奏会を開催。今回は、国内外で活躍され、東京佼成ウインドオーケストラの首席客演指揮者でもある飯森範親氏を客演指揮者に迎え、ハンソン「コラルとアレリヤ」、グールド「ウェスト・ポイント交響曲」、モンタギュー「イントラダ 1631」（日本初演）、バーンズ「交響曲 第3番 Op.89」の吹奏楽オリジナル作品を披露しました。

プログラムすべての演目に、世界の安寧を願い、苦難を乗り越えようという“生きる喜び”への思いが込められた心からの“祈り”



がありました。演奏するにあたり、いろいろな制限や制約がありましたが、それでも一生懸命に練習に励み、努力を惜しまなかった学生たちは、飯森氏の熱心で的確なご指導により、作曲者の意図する音楽を巧みに表現しながら、心のこもった温かく深みのある豊かな武蔵野サウンドで聴衆を魅了し、会場を感動の拍手で一杯にしました。



終演後、飯森氏から「限られたリハーサルの中かで、日本の未来を担う若い音楽家の方々が最高のパフォーマンスをしてくださったと思っています。素晴らしい演奏会をありがとう」とメッセージをいただきました。

本学在学生 佐藤ひらりさん 念願を叶え、パラリンピックで国歌独唱

8月24日から9月4日まで開催され、多くの日本人メダリストと多くの感動を生んだ東京2020パラリンピック。この開会式で、国歌を独唱したのが本学音楽総合学科作曲コース2年の佐藤ひらり（英里）さんです。

9歳から作詞・作曲を始め、既にシンガーソングライターとして活躍している佐藤さんは、東京開催が決まったときからこの大舞台で歌いたいという夢を持ちつづけ、オーディションを経て国歌独唱という大役をつかみ取りました。その喜びを身近な人に伝えたかったものの、出演者は当日まで極秘であり、とても歯がゆい思いをしたといいます。

4日間のリハーサルでボイストレーナーの先生に指導を仰ぎながら少しずつ修正していき、珍しく緊張した中で迎えた本番。スタッフの拍手に励まされ「これまで自分を支えてくれた方々や地元新潟の皆さんに感謝の気持ちを込めて歌った」という佐藤さんの澄んだ美しい歌声は、選手のみならず多くのテレビ視聴者を魅了しました。

今回、大役を果たし、「私は全盲ですが、障がいの有無に関係なく、歌声や作品そのものを評価されるようになりたい」とあらためて思ったそうです。



8月24日パラリンピック開会式当日、国歌独唱を終えた後に会場内の看板の前で

（写真は本人提供）

現在はマルチコンポーザーになるべく研鑽に励む佐藤さん。今後の抱負として「武蔵野でクラシックの基礎をしっかり学び、最前線の作曲法を身につけ、今後の活動に活かしたい」と力強く語ってくれました。

武蔵野音楽大学管弦楽団演奏会が、9月20日、本学ベートーヴェンホール、9月24日、東京芸術劇場コンサートホールにおいて開催されました。新型コロナウイルス感染症の拡大による影響が心配されましたが、今年度当初より万全の感染症対策を講じ、演奏会当日を迎えることが出来ました。

今回は、前期定期演奏会に初めて登場する時任康文学講師指揮のもと、ロッシニ「『セミラミデ』序曲」、リスト「ピアノ協奏曲 第2番 イ長調 S.125」、ラフマニノフ「交響曲 第2番 ホ短調 Op.27」を演奏しました。ピアノのソリストには、音楽学部演奏学科ヴィルトゥオーゾコース3年 曾田 響さん（20日）、大学院修士課程ヴィルトゥオーゾコース1年 吉田サハラさん（24日）が学内オーディションにより選抜され、単一楽章で緩急起伏の激しい作品において、それぞれのアプローチで優美な旋律を情感豊かに歌い上げ、強奏の部分ではオーケストラとともに躍動感に富んだ演奏で見事に作品を表現しました。演奏会後半のラフマニノフでは、時

エネルギッシュな演奏で聴衆を魅了した管弦楽団演奏会



任氏の力感あふれるタクトに応えたエネルギッシュな演奏に、会場から熱い拍手が送られました。

入間ミュージックフェスティバル開催

7月10日、バッハザールにて、「入間ミュージックフェスティバル」が開催されました。

今年度は、大学入学選抜（総合型選抜）の日程に伴い、7月に時期を変更し、附属高等学校生徒によるアンサンブルコンサートとして3年生のみの編成による演奏と、授業で練習してきたアンサンブルの成果を発表しました。

2台ピアノ8手連弾、重唱、管弦楽器の重奏など多彩なプログラムが繰り広げられ、最後に、本校の伊東光介教諭が編曲したM.ラヴェルの「ボレロ」を、3年生の全専攻生が特別な思いで熱演しました。

生徒たちは、先生方指導のもと、



各演奏のセッティングや曲の解説、配布用プログラムの作成にも携わり、演奏技術だけでなく、演奏会を開催するために必要なプロセスを学びました。コロナ禍での開催は制限が多かったものの、ステージに立てる喜びを噛みしめながら皆で作上げたミュージックフェスティバルは、思い出深いものになりました。

附属高等学校 在校生と卒業生によるコンサート開催

9月26日、ブラームスホールにて、「第25回 在校生と卒業生によるコンサート」を開催しました。

この演奏会は、附属高等学校生徒の向学心に応えるための研究発表の場として毎年開催しており、会場の皆様からの温かなご声援と忌憚のないご意見をいただいて、今後の指導の指針となる貴重な機会でもあります。出演者は専攻実技のみならず、本校の教育活動全般から総合的に判断して選抜されました。

今年度のプログラムは、ピアノ、サクソフォーン、マリンバ、クラリネット構成され、本校卒業生である高橋七海さん（大学演奏学科ヴィルトゥオーゾコース4年、ピアノ）が演奏会の最後を飾りました。



大型ストリートオルガンが本学楽器ミュージアムに寄贈される

6月17日、本学の卒業生から、オランダ製の「ストリートオルガン」が本学楽器ミュージアムに寄贈され、入間キャンパス1号館の1Fロビーに設置されました。

ストリートオルガンは街頭で演奏される手回しオルガンで、今から400年以上前にオルゴールのようにピンを植えたシリンダーを回すタイプから始まったといわれます。ヨーロッパ各地で使われましたが、特にオランダがその製作の中心地でした。

このオルガンは幅約4m、高さ約3mという大型のもので、屋内では電動でも演奏できます。このタイプは「ブック」と呼ばれる穴の開いたカードを送り込むことで、自動的にパイプを鳴らします。また、正面の2体の人形は手に持ったベルをたたきます。

当日、お披露目に立ち会った附属高等学校の生徒たちは、その見事な演奏に驚き、歓声を上げていました。



外国人教授紹介 (2021年度後期)

ルドルフ・ピールマイヤー (管弦楽団指揮/ドイツ)

【Profile】ミュンヘン音楽・演劇大学にて指揮をヨゼフ・ツィルヒ、ヘルマン・ミヒャエルの下で研鑽を積み、L.バーンスタイン等の指導を仰ぐ。1994年バイエルン州若手指揮者賞受賞。レーゲンスブルク劇場などの第一指揮者を経て、アウグスブルク州立劇場音楽総監督、同フィルハーモニー管弦楽団芸術監督、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団首席客演指揮者などを歴任。その他レンヌ・オペラ座、ナント・グララン劇場、ルーアン歌劇場などヨーロッパ各地で活躍する他、2021年からドイツ連邦軍中央音楽隊隊長を務める。

No.54

音 | 楽 | の | 万 | 華 | 鏡 |

薦田治子 (本学音楽学教授)

琵琶法師と感染症

琵琶法師が『平家物語』を語ったことはよく知られている。この音楽のことを「平家」という。中世に流行し、近世末まで古典音楽としての命脈を保ったが、21世紀に入り、700年を越えるその伝承は危機的な状況にある。

琵琶法師は、平安時代中頃から現れる民間の盲人音楽家である。琵琶法師の視覚障害の原因のひとつは天然痘である。今でこそWHOの根絶宣言がなされているが、かつて疱瘡とも呼ばれ、古くから流行を繰り返して人々に恐れられてきた。命を取り留めても、後遺症として、視覚障害が起きることも多く、琵琶法師の中にも、天然痘の犠牲者が少なからずいた。

琵琶法師は、鎌倉時代に『平家物語』が誕生すると、その語り手となった。琵琶法師の手で洗練されて古典音楽となった平家は、江戸時代にはさまざまな祝儀や不祝儀の席で演奏され、また、知的で優雅な稽古事として武士や茶人、俳人たちの間で愛好された。盲人音楽家は、表芸の平家はもちろん、人気の三味線、箏、胡弓の弾き歌いを習得し、マルチな音楽家として活躍し、箏曲「六段の調べ」や地歌「黒髪」など、美しい作品をたくさん後世に残した。時代の流行音楽を担いつつ、古典音楽の継承をすることは、今日でもなかなか難しいが、平家もその例にもれず、『平家物語』を全編語れない演奏家も多くなっていった。

江戸時代末、江戸の平家の宗匠(伝承の総責任者)の任にあたったのが、麻岡検校長歳一(1800-1858)である。生家は麻布魚籃寺近くの畳屋で、13才の時天然痘を患い失明した。音楽

の修行を積み、京都から本場の平家を江戸に伝えた。麻布にちなんで、「麻岡」を名乗り、津軽藩主や薩摩藩主らの愛顧を受け、1830年代から1850年代にかけて「斯道の名手」として活躍した。しかし、芸の絶頂期にあった安政5年(1858)に急逝する。麻岡の命を奪ったのは、その年に猛威を振ったコレラであった。その10年後、時代は明治維新を迎え、名人亡き後の江戸の平家は一気に衰退に向かう。



平家を語った江戸時代の検校(『人倫訓蒙図彙』1690刊巻2)
国立国会図書館デジタルコレクションより転載

武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、寄附金に対する税額控除制度の恩典が与えられたことに鑑み、教育環境整備基金、福井直秋記念奨学基金並びに演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々よりご寄附をいただきました。ここにご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。

学校法人 武蔵野音楽学園

同窓生

秋山江美様	大浦まゆみ様	熊谷晶子様	白戸史子様	中谷 勉様	原子英介様	宮下悠紀子様	吉海江令子様
浅川由利子様	太田春子様	黒森陽子様	菅原英洋様	中村俊輔様	平野 林様	宮本康代様	渡邊小百合様
家泉浩美様	大森朋子様	古賀和子様	鈴木弥生様	西園芳信様	廣瀬登喜子様	村上容枝様	同窓会山梨県支部様
石渡百合子様	小川眞理子様	小林 郁様	巽 蔦枝様	長谷川亜希子様	深澤伊久里様	森 哲子様	
伊藤征夫様	荻野陽子様	小松孝子様	田中路恵様	波多野溪子様	深谷陽子様	森田恵理様	
井上栄子様	楠田美紀子様	齋藤善江様	筑波玲子様	濱口壽満子様	星野慶子様	山口幸代様	
岩井ゆう子様	寛 美代子様	佐々木喜与子様	徳田ゆき様	濱見一代様	本田 康様	山添信正様	
上村由利様	加藤早苗様	佐々木信雄様	外岡久子様	林 秀樹様	松浦靖子様	山本邦子様	
打越孝裕様	川北冠子様	佐藤三津子様	鳥毛有香様	林 裕美子様	水井恵美子様	山本千恵子様	
宇都宮 攻様	川邊宣子様	志賀訓子様	永田伸子様	原 歌織様	光田明子様	吉井 昌様	

在学生・ごご父母

新井大助様	大友博昭様	河村浩明様	坂本智喜様	高橋美帆様	野村芳久様	三嶋由紀様
池谷勝之様	大畑猶茂様	古川 崇様	佐藤 弘様	中村直史様	本間健一様	吉田裕三様
太田節雄様	河村俊秀様	境野昇寿様	須田富士子様	新實曜子様	栢田由香様	

役員・教職員・一般・他

阿久津三智子様	上原正子様	小畑朱実様	小松康裕様	清水直美様	谷 友博様	中村華奈子様	福井直敬様
新井和子様	大里佳菜恵様	川辺 真様	薦田治子様	関根弘美様	戸部 豊様	原田知子様	村上直行様
石井牧子様	大竹 亮様	岸田 譲様	堺 康馬様	耕 修二様	中川俊宏様	日高正枝様	横地千鶴子様
植木象平様	奥田 操様	黄原亮司様	佐野悦郎様	田代慎之介様	中田淳子様	平田亜矢様	

※ご芳名(五十音順)は、2021年4月1日から8月31日までにご寄附いただいた方々です。(他に匿名を希望される方55名)

それ以降の方々は、次号にて掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきます。何とぞご了承ください。

※本学ウェブサイトからも、クレジットカード決済によりご寄附のお手続きができます。是非ご利用ください。

栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）

名 称	内 容	氏 名
令和2年度下總院一音楽賞	音楽文化貢献部門 受賞	戸部 豊(本学名誉教授、1961年専攻科修了・トランペット)
東京交響楽団	ホルン奏者として入団(2021年7月)	加藤智浩(2010年大学卒業・ホルン)
山形交響楽団	ホルン奏者として入団(2021年7月)	小椋陽咲(2018年大学卒業・ホルン)
第31回朝日作曲賞	受賞、2022年度全日本吹奏楽コンクール課題曲 入選	杉浦邦弘(1987年大学卒業・打楽器)
第6回国際行進曲作曲コンクール“Città di Allumiere”(イタリア)	コンサート・マーチ部門 第2位	正門研一(1989年大学卒業・音楽学)
東京交響楽団&サントリーホール企画「新曲チャレンジ・プロジェクト〜こどもと若手作曲家による〜」作品募集	入選、サントリーホールで初演(2021年12月12日)	小田実結子(2018年修士修了・作曲)
第3回国際モスクワ音楽オンラインコンクール	ピアノソロ部門(46歳から55歳のカテゴリー) 第2位	依田真理(1990年大学卒業・ピアノ)
キングスピック国際音楽コンクール2021年 夏期(アメリカ/オンライン)	ピアノ部門 Gグループ(23歳以上) 第3位	依田真理(1990年大学卒業・ピアノ)
2021パデレフスキ イン メモリアム 国際ピアノコンクール(ポーランド/オンライン審査)	グループB2 グランプリ	恒本優花(大学2年・ピアノ)
第1回伊勢志摩国際声楽コンクール	第3位	林 真悠美(2018年修士修了・声楽)
中部打楽器協会 第17回新人演奏会(オーディション形式)	第1位	横地ちひろ(修士2年・マリンバ)
文藝春秋メディア事業局主催「大人の未来図」コンテスト	最優秀賞	頼岡えみり(大学3年・ピアノ)
第17回アジア国際音楽コンクール	大学生ピアノ部門 第1位 大学生ピアノ部門 第2位	高橋七海(大学4年・ピアノ) 堀之内千紘(修士2年・ピアノ)
第6回水と緑のまち江戸川新進音楽家コンクール	ピアノ部門一般の部 第3位、審査員長奨励賞	吉原麻実(2021年修士修了・ピアノ)
SAKURA JAPAN MUSIC COMPETITION 2021	ピアノ部門 全国大会 大学生の部 第3位(1位なし) ヴィオラ部門 カテゴリーC 第3位(1位、2位なし)	佐藤佳穂(大学3年・ピアノ) 木田桃華(大学3年・ヴィオラ)

※上記の他多数。大学ウェブサイトをご覧ください。掲載は順不同、敬称略、学年は受賞時のものです。

2021年度 オープンキャンパス

開催日	主な実施内容	会場
11月 3日(水祝)	Webオープンキャンパス レッスン・授業動画配信 他	本学ウェブサイト
11月28日⑧	体験レッスン、進学相談	武蔵野音楽大学
2022年3月20日⑨	学生によるコンサート 他	江古田キャンパス

2021年度のオープンキャンパスを左記の日程で開催します。ぜひご参加ください。

※今後の状況により中止または内容が変更になる場合があります。※詳細は本学ウェブサイトをご覧ください。

お問合せ | 武蔵野音楽大学 入学センター TEL.03-3992-2500
E-mail : nyugaku-c@musashino-music.ac.jp

2021年11月・12月の演奏会

11/18 ^⑧ 19:00	ニュー・ストリーム・コンサート44 ～ヴィルトゥオーゾコース演奏会～ 出演＝加藤愛海 (Cl.)、田中初音 (Fl.)、茂木孔亮 (Pf.)、新城智史 (Fl.) 菊地章太郎 (Cl.)、高橋七海 (Pf.)	トッパンホール ¥1,500 (全席自由)
11/30 ^⑧ 18:30	イリヤ・イーティン ピアノ・リサイタル 曲目＝チャイコフスキー：《四季》Op.37bis ムソルグスキー：組曲《展覧会の絵》	ベートーヴェンホール (江古田) ¥1,000 (全席自由)
12/2 ^⑧ 18:30	管弦楽団演奏会 指揮＝ルドルフ・ビールマイヤー 曲目＝ブラームス：ハイドンの主題による変奏曲 Op.56a ラヴェル：バレエ音楽《ラ・ヴァルス》 ブルックナー：交響曲 第7番 ホ長調 WAB.107 (ノヴァーク版)	東京芸術劇場 コンサートホール ¥1,500 (全席指定)
12/8 ^⑧ 18:30	室内合唱団演奏会 指揮＝栗山文昭、片山みゆき ピアノ＝齋藤誠二、川瀬紗綾 曲目＝グレゴリオ聖歌：《死者のための典礼》より モーツァルト：めでたし、まことのお体 K.618 三善 晃 (編曲)：混声合唱と2台ピアノのための《唱歌の四季》他	ベートーヴェンホール (江古田) ¥1,000 (全席自由)
12/13 ^⑧ 18:30	ウィンドアンサンブル演奏会 指揮＝武田 晃 曲目＝クレストン：祝典序曲 Op.61、W. シューマン：ニュー・イングランド三部作 リード：ワーグナーのボラツツィの主題による変奏曲、マスランカ：交響曲 第8番	東京オペラシティ コンサートホール ¥1,500 (全席指定)

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために演奏会の開催が延期、中止または入場者の制限をさせていただく場合があります。
ご来場前に本学ウェブサイトでの確認または、本学演奏部にお問い合わせください。

※チケットは本学ウェブサイトでもご予約ができます。

●お問合せ 武蔵野音楽大学演奏部 TEL.03-3992-1120 ●武蔵野音楽大学ウェブサイト <https://www.musashino-music.ac.jp/>

2022年度 入学試験日程

大学院音楽研究科

	出 願 期 間		試 験 期 間
	郵 送	窓 口	
博士後期課程	2022年2月10日 ^⑧ 消印 ～2月17日 ^⑧ 必着	郵送のみ	2022年 3月8日 ^⑧ ・9日 ^⑧

音楽学部 第1年次

	出 願 期 間		試 験 期 間
	ウェブ出願	出願書類郵送	
1年次一般選抜 A日程	2022年1月14日 ^⑧ ～1月25日 ^⑧	2022年1月21日 ^⑧ 消印 ～1月28日 ^⑧ 必着	2022年 2月18日 ^⑧ ～22日 ^⑧
1年次一般選抜 B日程	2022年2月15日 ^⑧ ～2月26日 ^⑧	2022年2月22日 ^⑧ 消印 ～3月1日 ^⑧ 必着	2022年 3月5日 ^⑧ ～7日 ^⑧
1年次一般選抜 C日程	2022年2月28日 ^⑧ ～3月11日 ^⑧	2022年3月 7日 ^⑧ 消印 ～3月14日 ^⑧ 必着	2022年 3月16日 ^⑧ ～18日 ^⑧

●今年度より出願方法はウェブ出願となります。手続方法等詳細については本学ウェブサイトでご確認ください。

●一般選抜A・BおよびC日程の受験では、国語・外国語(英語、ドイツ語またはフランス語)については、大学入学共通テストまたは旧大学入試センター試験の成績を利用できます。

音楽学部 第3年次

	出 願 期 間		試 験 期 間
	郵 送	窓 口	
3年次編・ 転入学(一般)	2022年1月17日 ^⑧ 消印 ～1月24日 ^⑧ 必着	郵送のみ	2022年 2月10日 ^⑧ ・11日 ^⑧

別科

	出 願 期 間		試 験 期 間
	郵 送	窓 口	
別科	2022年1月17日 ^⑧ 消印 ～1月24日 ^⑧ 必着	郵送のみ	2022年 2月11日 ^⑧ ・12日 ^⑧

附属高等学校(音楽科)

	出 願 期 間		試 験 期 間
	郵 送	窓 口	
推薦入試	2022年1月8日 ^⑧ ～1月15日 ^⑧ 必着	郵送のみ	2022年1月22日 ^⑧ 附属高等学校 入間キャンパスにて実施
一般入試A	2022年1月22日 ^⑧ ～1月29日 ^⑧ 消印	郵送のみ	2022年2月10日 ^⑧
一般入試B	2022年3月2日 ^⑧ ～3月10日 ^⑧ 必着	郵送のみ	2022年3月16日 ^⑧

※詳細は、各入学者選抜要項、入学試験要項でご確認ください。

【会 場】武蔵野音楽大学江古田キャンパス
(附属高校推薦入試を除く)

【要 項 請 求】各入学試験要項は江古田キャンパスで取り扱っています。郵送をご希望の方は、本学ウェブサイトの「資料請求フォーム」からお申し込みいただくか、広報室へお電話にてご請求ください。

【要項請求先】武蔵野音楽大学 広報室 TEL. 03-3992-1125
本学ウェブサイト <https://www.musashino-music.ac.jp/>

2021年度 冬期受験講習会

講習会名	期間	申込受付期間	会場
大学受験講習会	2021年12月25日 ^⑧ ～27日 ^⑧	2021年10月25日 ^⑧ ～12月15日 ^⑧	武蔵野音楽大学 江古田キャンパス
高校受験講習会	2021年12月25日 ^⑧ ・26日 ^⑧		

◎詳細は、本学ウェブサイトまたは講習会要項でご確認ください。

◎講習会要項は、本学ウェブサイトからお申し込みいただくか、広報室(TEL. 03-3992-1125)へお電話にてご請求ください。
本学ウェブサイト <https://www.musashino-music.ac.jp/>

Contents Vol.138 2021

- | | | |
|-------|---------------------|--|
| 1 | 巻頭 特別対談 | 「将棋と音楽」——時代を超えるその普遍的物語（前編）
佐藤天彦九段×福井直昭学長 |
| <hr/> | | |
| 7 | 武蔵野で働く人々 | |
| <hr/> | | |
| 11 | スポットライト | チャンスをつかんで栄えある舞台へ！ |
| <hr/> | | |
| 12 | 「楽器ミュージアム」いよいよオープンへ | |
| <hr/> | | |
| 13 | Musashino News | リストプラザにフランツ・リスト胸像設置
聴衆も待ちわびたケマル・ゲキチ ピアノ・リサイタル
坂東玉三郎特別招聘教授による特別講座開催
飯森範親氏を客演指揮者に迎えウィンドアンサンブル演奏会開催
本学在学生 佐藤ひらりさん 念願を叶え、パラリンピックで国歌独唱
エネルギッシュな演奏で聴衆を魅了した管弦楽団演奏会
入間ミューズフェスティバル開催
附属高等学校 在校生と卒業生によるコンサート開催
大型ストリートオルガンが本学楽器ミュージアムに寄贈される
外国人教授紹介（2021年度後期） |
| <hr/> | | |
| 16 | 音楽の万華鏡 | 「琵琶法師と感染症」 薦田治子 |
| <hr/> | | |
| 17 | Campus Information | 武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々
栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）
2021年度 オープンキャンパス
2021年11月・12月の演奏会
2022年度 入学試験日程
2021年度 冬期受験講習会 |

表紙の写真

図書館の1階から地下1階につながる階段に設置されている、「音」をモチーフとしてデザインされたステンドグラス。旧江古田キャンパスの図書館前にあったものを移設した本学の貴重なレガシーであり、柔らかな光を館内に呼び込んでいます。



学校法人 **武蔵野音楽学園**

江古田キャンパス | 〒176-8521 東京都練馬区羽沢 1丁目 13-1
TEL. 03-3992-1121 (代表)

入間キャンパス | 〒358-8521 埼玉県入間市中神 728
TEL. 04-2932-2111 (代表)

パルナソス多摩 | 〒206-0033 東京都多摩市落合 5-7-1
TEL. 042-389-0711 (代表)

武蔵野音楽大学大学院
博士前期課程・博士後期課程

武蔵野音楽大学

武蔵野音楽大学別科

武蔵野音楽大学附属高等学校

武蔵野音楽大学第一幼稚園

武蔵野音楽大学第二幼稚園

武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園

附属音楽教室 江古田・入間・多摩

武蔵野音楽大学ウェブサイト <https://www.musashino-music.ac.jp/>

